

## 8. 自由回答意見

問 20 すべての人の人権が尊重され、男女がともにその個性と能力を発揮できる社会の実現をめざす男女共同参画社会を実現していくために、行政にご意見・ご提案がありましたら自由に記入してください。

男女共同参画についての意見を自由回答形式で求めたところ、247 人から回答があった。主な意見は次の通り。(抜粋)

### 【行政、政治について】

- ◆「行政への管理職に女性が増えれば(増えていけば公表するなどして)、全体のイメージが変わりそう」(男性 30 代)
- ◆「女性の活躍推進の取組を一過性に終わらせないで欲しい。また、女性の活躍という施策には、「きらめく」や「輝く」といった、企業内でいきいきと働く姿を惹起させる言葉が使われがちであるが、私はそのフレーズにより、働くことへのハードルを高く感じてしまう女性が一定数存在するのではないかと懸念している。それらのフレーズを使っていただきたくないということではなく、世帯収入や学歴等セグメントに応じた適切な施策を実施していただくことを望んでいる」(男性 30 代)
- ◆「社会・会社においても、特に女性がリーダー・管理職を担いながら、子育て・介護を同時に行うことがまだまだ困難な環境は続いており、めざせるモデルケースが少ないのも確かです。国や行政が率先して発信していくのも一つの役割だと思います。制度や窓口の設置だけにとどまらず、行っていただければと思います。」(女性 40 代)
- ◆「まずは市議会や市役所で女性の割合を男性と同等(管理職の割合も同等)にすべきだと思う」(男性 40 代)
- ◆「女性が社会で活躍できる環境をいっそう推進するため、保育所や介護施設をいっそう拡充する必要がある。また企業への啓発や、女性の再雇用が図れるよう、企業とのマッチングなどを進めるべきと思う。男性の育休があたり前の社会にしていくため、行政が率先して姿勢を見せるべき」(男性 40 代)
- ◆「女性の活躍の推進が地域や就業の場におけるリーダー的な役割を担うことであるとの考え方の上立った調査に疑問を感じる。育児に専念することも十分に“活躍”しているのではないか。就業や地域貢献へのサポートや制度づくりにばかり目を向けるのではなく「子育て」を生きがいと感ずることができるようバックアップするのが行政の大事な役割ではないか」(女性 50 代)
- ◆「場当たりの対処療法ではなく、根本的な部分を見直し、メスを入れることが必要かと思っています。数字ばかりを追わず、個々の幸福感が向上することを目的として行政施策を行っていただきたい。」(男性 60 代)
- ◆「議員を男女平等なので1/2ずつにする」(女性 70 歳以上)

### 【育児・介護休業など、働きやすい職場支援や社会づくりについて】

- ◆「育休をとりやすい社会にする」(男性 10 代)
- ◆「女性だけでなく、男性にも休暇や制度を使いやすいようにして欲しいです(かといって男性にしか適用されないのも駄目です)。(理由):女性にしか適用されないと、いつまで経っても「女性だけ優遇されている!」という意識が消えないからです。」(女性 20 代)
- ◆「夫の会社では保育料の補助制度がありますが、その制度を利用できるのは育休取得者のみで実態は女性のための制度です。」(女性 30 代)

◆「私の夫は転勤があるのだが、夫婦が個性と能力を發揮しようと思うと、単身赴任という形しか取れない。お互いの仕事を退職し、一緒に暮らすことになると、何年後だろう。果たして夫婦の意味はあるのか。また、片親がワンオペ育児になり、単身では大変すぎる。行政で転勤制度のテコ入れはできないものでしょうか？」(女性 30代)

◆「育児をしながら仕事をする際、制度があり、女性が働きやすくしてくれているが、実際の小企業ではその制度は守られず、不利である。大企業だけでなく、中小企業も含めて全ての会社が、制度を守るように、行政から強く伝えてほしい」(女性 40代)

◆「保育所の充実なくして不可」(男性 60代)

### 【家庭、学校における教育について】

◆「幼少期より男性は仕事、女性は家事というスタイルが定着しすぎているので、男性は大人になっても自分の事、家の事が出来ず、女性がするものという思い込みで女性への負担が大きくなっていると思います。まず、学校教育から見直し、女性の給料を高く(男性と同等)し、夫婦のどちらが世帯主となっても生活できるレベルの社会をめざせば、女性も社会に進出でき、女性が特意とする仕事でも生活できると思う。あと女性も家庭を理由に逃げすぎです。女性が社会と向きあう意識も必要」(女性 40代)

◆「行政は様々な条例、制度、相談窓口の設置などハード面は充実されているつもりな気がします。本当に必要な手助けとなる事は知られておらず、届いていません。大人になる前、小・中・高と学校で通う間に子どもの頃からしっかりと意識や考えを身につける教育や広報活動を行うべきだと思います」(女性 40代)

◆「学校教育が重要であると考え。男性は体も強く、大きい場合があり、その身体的能力を利用した仕事につくことができるが、女性には少し辛いのではと思う。このようなケースを含め男女の尊重された社会のそれぞれ個人がイメージできるように働きかけることが必要である」(男性 40代)

◆「社会人になるまでの教育の場で男女共同参画社会について深く話し合う機会を作ると良いと思います」(女性 50代)

### 【個人の意識について】

◆「男性はこうであるべき、女性はこうであるべき、という固定概念をなくすべきだと思う。とはいえ、年齢が高い方にはその考えをなくすのは難しいと思うので、今の若い世代が概念を少しずつ薄めるように出来れば、偏った考えもいつかはなくなると思う」(女性 20代)

◆「男性も女性も固定観念を取り払うことがまず第一だと思います」(女性 40代)

◆「男性の意識改革 男性には大げさに言えば男尊女卑の考えが根本にあると思わされることが多いため。特に子ども間(小学生の間)に平等であることを徹底的に教育するべきだと思います。大人に言っても無駄です」(女性 40代)

### 【企業について】

◆「企業への、積極的な、働きかけ、支援」(女性 20代)

◆「個々の認識としては、男女共同参画社会に賛同するが、企業などのしきたりや習慣が残っているため、未だ男女平等ではない。そこを改革していかなければ男女共同参画社会の実現には程遠いのではないかと思います」(女性 20代)

- ◆「職場の風土をかえたほうが早いと思う」(女性 30代)
- ◆「トップに近い程閉鎖的であるのが現実では？ここが変わらねば本当は変化しない。トップの下は進んでいると思いますよ」(男性 60代)

### 【制度や施策の啓発、PRの強化について】

- ◆「問19にある制度、施策は知らない。本当に取り組んでいるのか疑問。大阪市のHPに掲載しているのだろうが、興味を持つ人間しか見にいかない。HPに掲載して周知している気になっているだけ。普段興味を持たない人間にいかにか知らせていくかが重要だと思う」(男性 50代)
- ◆「問19の制度や施策はほとんど知らない。もっと広報していけば良い」(男性 60代)
- ◆「色々と、良い事を計画し、実施されている事はわかりますが、市民全体への告知不足、PR不足があるのではないのでしょうか？私自身の責任もありますが、関わりのない事でも、ん？と思って見てみる、聞いてみる気持ちを起こさせる告知方法はないのでしょうか」(男性 60代)
- ◆「制度や施策などもっともっと知らせてほしい」(女性 60代)
- ◆「男女共同参画という制度があること自体を知らなかった 全然周知されていないのではと思う もっと関心をもってもらえるようにアピールした方がいいのでは？ しかし男はえらいと思っている人が多い世の中、そういう家庭で育ってきている人にとって、いくら平等だと言っても聞く耳のない人もいるように思います」(女性 60代)
- ◆「問19にあるような施策をもっと宣伝すべきだと思う。本当に困っている人達がこれらの施設に辿り着くができないのが現状。1. 学校教育(小・中高等)で自分や家族が生きにくい状況になった時、まずどうするかと言う解決策に辿り着く方法、場所など(施設も)分かりやすく教える必要がある。2. 困った時は「ここへ」のような声かけ、ポスター等をテレビ、その他の情報で繰り返すのはどうか」(女性 70歳以上)

### 【その他】

- ◆「今回のような意識調査を受けて大阪市の制度が大阪市民にとってより良いものになる事を願います。また本調査を通して私自身も不勉強な部分がたくさんある事を再認識する事が出来ました。受け身でい続けず、積極的に自分も参加していきたいと思います」(男性 30代)
- ◆「何かの原因で心に傷が付いてしまって社会復帰がうまくできない人の為に、そういう精神的な病を治していく過程でも社会復帰できる場所があれば良いなと思いました」(女性 30代)
- ◆「同性パートナーへの理解や法律の制定、各制度の利用資格の拡大、(例えば同性婚の家庭で養子をとった場合の育児休暇取得など)など行政がやるべきこと、行政にしかできないことがたくさんあると思います。民間に任せられることは任せるなどして、役割分担を柔軟にできる行政になってほしいと考えます」(女性 40代)
- ◆「母子家庭は制度活用できるが、父子家庭も平等に制度が必要」(女性 60代)